

平成28年度第5回江東区外部評価委員会

1 日 時 平成28年8月18日(木)
午前10時58分 開会 午後 0時 5分 閉会

2 場 所 江東区役所 7階 第74会議室

3 出席者

(1) 委 員

吉 武 博 通	塚 本 壽 雄
植 田 みどり	藤 枝 聡
布 施 伸 枝	宮 澤 正 泰

(2) 事務局

副区長	大 井 哲 爾
〃	海老澤 孝 史
政策経営部長	押 田 文 子
経営政策部企画課長(行政管理担当課長兼務)	武 田 正 孝
経営政策部財政課長	武 越 信 昭
経営政策部計画推進担当課長	日 野 幸 男

4 傍聴者数 1名

5 会議次第

1. 開会
2. 議題
(1)平成28年度外部評価報告書(案)について
3. その他
4. 閉会

6 配付資料

- ・資料1 平成28年度外部評価結果報告書(案)について

午前 10時58分 開会

○委員長 それでは、定刻より少し早いんですけども、第5回江東区外部評価委員会を開会したいと思います。委員の皆様には、特にお暑い中、またご多忙の中ご出席いただきましたことを心から感謝申し上げます。

今日は、全員出席ということでございます。なお、1名の傍聴者の方がいらっしゃいます。既にお席についていらっしゃいます。よろしくお願いいたします。

初めに、お手元の資料の確認をお願いいたします。席上にごございます会議次第に配付資料の記載がございます。不足がございましたら事務局職員までお願いいたします。

よろしいでしょうか。もし途中で、何かありましたらお願いします。

それでは、平成28年度外部評価結果報告書（案）につきまして、議題の1、これからご審議をいただきたいと思います。この外部評価結果報告書（案）ですが、第1回外部評価委員会で各委員にご了承いただきました外部評価委員会の運営において、正副委員長で評価（案）を作成の上、各委員に提出するとされておりますことから、委員の皆様方からご提出いただきました外部評価シートに基づき、委員長の私と塚本副委員長とで調整の上、取りまとめたものでございます。報告書（案）につきましては既に皆様にもごらんいただいているところでありますが、改めて事務局より説明をお願いしたいと思います。

○事務局 それでは、説明に入ります前に、本日は実質的な最後の委員会でございますので、本区の両副区長も出席させていただいてございます。大井副区長と、海老澤副区長でございます。よろしくお願いいたします。

○委員長 よろしくお願いします。

○事務局 それでは、私のほうから外部評価報告書（案）についてご説明をさせていただきます。少々お時間をいただきますが、あらかじめご承知おきいただきたいと思います。

まず、案を取りまとめるに当たりまして、委員長、副委員長に細かく見ていただきましたとともに、委員の方々には時間のない中でご確認いただきまして、まことにありがとうございました。

それでは、内容について概略を説明させていただきます。まず、表紙をおめくりいただきますと、「平成28年度外部評価について」ということで、委員長の挨拶文を掲載してございます。主な点について申し上げます。

まず、冒頭の2段落につきましては、外部評価委員会が昨年度に引き続き行われたことや、今年度は11施策と計画の実現に向けての1項目について実施したことを記述してございます。

次の3段落目では、外部評価モニターについて言及をしてございます。3段落目の4行目にございますが、各回合わせて79名が参加し、意見や質問をいただいたこと、また区民の視点が加わることで議論が深まり、今後の改善や発展のヒントとなったことが書かれてございます。

次の4段落目でございますけれども、「計画や評価は、ともすると計画のための計画、評価のための評価になりがちですが、主管・関係部課、外部評価モニター、外部評価委員の三者が、施策の目的、進捗、成果を多面的に確認し合うことを通して、計画及び評価を一層意味あるものに高めていくことができると考えており、2年目の評価を終え、確かな手応えを感じているところです」とご指摘をいただいたところでございます。

そして、次の5段落目のところで、「外部評価を含む行政評価の目的は、『誰のため』に『何を』行うべきか区民に分かりやすく説明し、区民福祉の向上のための長期計画の着実な推進、確実な区政運営の実現を図ることです」と、まとめているところでございます。

以上が、委員長の挨拶文となっております。

次に、1ページをお願いいたします。1の外部評価委員会についてでございますけれども、2ページ以下で、今回の外部評価委員会の概要についてまとめてございます。

1の外部評価委員会の目的、2の評価結果の取扱い、3の外部評価委員会の構成については、お読みいただければおわかりいただけると思いますので、説明は割愛させていただきます。

4の外部評価モニターでは、その概要を記述してございます。資料に記載のとおり、区民2,000人を無作為抽出し、この中で参加を希望する方に外部評価モニターとして委員会を傍聴していただいております。詳しい参加状況や外部評価モニターの意見等につきましては、76ページ以降に記載をしてございますので、こちらにつきましては後ほどごらんいただければと思います。今年度、平成28年度は112人の申し込みがございまして、79人の方にご参加をいただいているところでございます。

次に、3ページの5、評価対象ですが、表に記載の12施策を対象としてございました。また、6には評価方法をまとめてございます。具体的な評価の視点につきましても、下段に記載のとおりとなっているところでございます。

4ページには、7、実施方法・日程等をまとめてございます。表に記載してございますけれども、6月30日にガイダンスを行った後、2つの班に分かれまして、それぞれ評価を行ってございます。また、それぞれに参加しましたモニター数、傍聴者数につきましては、

記載のとおりとなっております。

以上が外部評価委員会の概要でございます。

次に、5 ページに、2 の総評でございます。こちらもポイントを絞って説明をさせていただきます。

6 ページでございますが、まず、全体的な評価として6 行目の後半にございますが、「今年度の評価対象となった施策については、『いずれの施策も計画達成に向けて真摯な取り組みが行われており、概ね着実に推進されつつある』」と評価をいただいているところでございます。

その上で大きく、(1) 施策別評価の総括、(2) 計画推進に向けた課題、そして8 ページの(3) 実効性ある評価に向けての3 点に整理していただいているところでございます。

まず、(1) 施策別評価の総括では、1 行目にございますけれども、「S、A、B、C の評定だけで計画の実施状況の評価することは難しいが、敢えて評定のみを基に整理すると次の通りとなる」としまして、全委員、全項目がA以上の評価になっているもの、B以下が過半となったもの、その他の3 つに区分して分析をいただいているところでございます。これらの評価結果につきましては、5 段落目にございますけれども、「これらの結果は、直接的に取り組みの優劣を意味するものではない」とし、「いずれの施策についても、ヒアリングを通して主管部を中心に真摯な取り組みが行われている様子が十分に理解できた」とされてございます。

また、次の段落では、今回の委員意見の中で目立ったものとして、アウトリーチ的な取り組みですとか、当該施策が何を目指し、何をもって実現したとするか、それを区民にどう理解してもらうかという意見だったということで、指摘をいただいているところでございます。

次に、7 ページの(2) 計画推進に向けた課題についてでございますが、こちらもポイントを絞ってご説明をさせていただきます。

まず、①区民ニーズや社会状況の的確な把握ですが、ここでは表題の下にございますとおり、「施策が目指す方向について、区民アンケートなどにより適切に区民ニーズを把握している施策がある一方で、社会状況の変化などを適切に把握しているか疑問な施策も見られた」とされてございます。

次に、②国や民間団体など、他関係機関との適切な役割分担です。ここでは、2 行目にございますけれども、「国・都・民間団体・区民等、様々な主体が自主的又は協働して取

り組まなければ目標を達成できない施策が多くある、しかし、施策によってはこうした関係者間の役割分担や区民との連携等が具体的でないものも見られた」と指摘をいただいているところでございます。

次に、③成果指標の明確化と戦略的な取り組みでは、4行目にございますように「『構造化』が重要である」とした上で、その後に「区民ニーズを的確に把握し、現行の指標の妥当性や新たな指標の必要性を検討し、『誰』に対して、『いつまで』、『どれだけ』の行政資源を絞り込んで投入するか、戦略的に取り組むことが必要である」としてございます。

④費用対効果の検証と見える化の徹底につきましては、「施策の推進にあたり、今後のライフサイクルコストを誰がどのように負担すべきかについて、十分に検討しなければならない」とした上で、8ページ目の2行目にございますけれども、「公会計制度の活用など資料上に見える化を行い改善を図ることが重要である」としてございます。

次に、⑤区民への情報提供と参加・参画の拡大です。ここでは、「区の施策の目標・考え方・進行状況・実施状況を常に区民へわかりやすく伝える説明責任の努力を継続することが必要である」としてありますが、欄外に「※1 今年度参加した外部評価モニターの意見の中には、区の取り組みを評価する一方で事業の周知が十分でないとの指摘があった」。この点につきましては、77ページ以降に記載がございます外部評価モニターの意見の中で、例えば、「このような取り組みが行われていることを全く知らなかった」ですとか、「広報・PR活動が重要だと感じた」などの意見もあったところでございます。

最後に（3）実効性ある評価に向けてでございますけれども、1段落目にありますように、「行政評価の目的は、区民福祉向上のための長期計画の着実な推進、確実な区政運営であり、評価そのものが目的化してはならない」。また、「評価を踏まえた事業の検証・見直し、予算編成、事業の実施を一つのサイクルとし、時代の変化に常に適切に対応できる区政運営の実現を図ることが重要である」と指摘をいただいているところでございます。その上で、最後にありますが、「『評価』を改善するチャンスと捉え、区政運営のさらなる高度化に結びつけていただくことを期待する」とまとめているところでございます。

以上が、総評となっております。

次に、9ページ以降では、各施策の評価を掲載してございます。9ページには評価基準を掲載してございます。10ページの施策2でご説明をいたしますと、10ページ、11ページが主管部が作成をいたしました一次評価である施策評価シートとなっております。また、

12ページには平成27年度の最終的な行政評価結果である二次評価と、13ページにはそれに対する取り組み状況についてまとめております。

以上の資料を活用いたしまして、外部評価委員と区職員との間で質疑応答を行ってございます。その結果、外部評価委員の評価が14ページとなっております。網かけの部分を見ていただきますと、①「施策の目標に対し、成果はあがっているか」から、④「施策の総合評価」まで4点にまとめていただいているところでございます。評価については、S、A、B、Cの4段階としてございます。また、欄外に外部評価モニターの評価をまとめてございますが、詳細につきましては最後の4、資料のところをごらんいただければと思います。また、表の中にありますエ、オ、カなどがございますけれども、委員の方が6人いらっしゃると思いますので、アからカまでを表記してございます。

以上が、施策評価となっております。

最後に、75ページ以降でございますけれども、資料となっているところでございます。76ページには、先ほどもご紹介をいたしました外部評価モニターについて、役割ですとか応募状況、出席状況を記載し、77ページ以降にはそれぞれの施策について評価と評価理由を掲載してございます。また、89ページには指標の現状値の推移を、92ページには外部評価委員会の設置要綱を記載しているところでございます。

説明は以上でございます。

○委員長 どうもありがとうございます。非常にわかりやすい、簡潔な説明をいただきまして、ありがとうございます。またきちんとまとめていただいている、どうも、感謝申し上げます。

それでは、委員の先生方から、ただいまの報告書（案）につきまして、何かご意見、ご質問等ありますでしょうか。今日は最後ですので、何なりとおっしゃっていただければと思います。いかがでございますでしょうか。この辺の表現はちょっと変えたほうがいいのかというようなことがあれば。

施策のところの、個々の評価のところは、そのまま委員の評価を掲載している。

○事務局 はい。いただいたものをそのまま。

○委員長 ここはもう修正がないわけですから、基本的には私のほうでまとめた挨拶文のところと、それから総評のところ、この2つにつきましては副委員長とも事前に調整をさせていただいて、ご意見もいただいた上でまとめていただいたと思います。と言いながら、原案はしっかりとまとめていただいて、非常にいい原案をつくっていただきましたので、我々のほうで手直しをすることはあんまりなかったんですけれども、いかがでござい

でしょうか。

どうぞどうぞ。

○委員 構成上の問題なのかもしれないんですけども、一応。

今の説明で、14ページで私ども外部評価委員の評価の記載があつて、一番下に参考として、外部評価モニターの評価ということで、SからCの評価だけが、これの詳細というのが、多分、添えてあるところの77ページになるのかと思うんですけども、それはちょっとここから抜かないとわからない部分があるのと、逆に、この外部評価委員の評価の次のページに外部モニターの意見の一覧を載せるという構成がちょうど見やすいのかなと思っただんですけども、もしくは、この外部評価モニターの評価のところに何ページ参照みたいにしないと、すぐ77ページに結びつかないのかなと、ちょっと今、構成上で感じました。

○事務局 一応、つくり方としては去年と同じようになっておりますけれども、確かに、何ページ参照とつけたほうがわかりやすいかもしれませんので、それもちょうと工夫をさせていただければと思います。

○委員長 そうですね。大切なご指摘ですので、それでは、並べ方を変えるのはまた来年度にでも考えるとして、なるほど、例えば15ページに外部モニターの意見の一覧を入れるというのも一つかと思しますので、それは来年度に考えるとして、14ページの下のところ、外部評価モニターの評価というところの下に、77ページ参照というふうにしておいていただくということにいたしましょうか。ただ、私たちに配り直していただく必要はありませんので、それはもう僕らがみんな理解しておけばいいわけですから、これをあとどういふふうにご利用されるかというのは私はわかりませんが、そのときに、あるいは庁内で説明されるときに、まだこれからでも間に合うものであれば、そこからちょっと修正をいただければと思います。ありがとうございました。

そのほか、いかがでございましょうか。

はい、どうぞ。

○委員 7ページの、(2)計画推進に向けた課題の②なのですが、これも含めて全体については全く異論はないんですけども、もしご検討いただけるようであればというレベルの意見として聞いていただければということなんです、最後の「特に」という段落のところなんですけれども、「子どもの貧困対策・ダイバーシティ等への対応には、区の縦割りをなくし外部の関係機関とも」云々と書かれておるんですが、ここで2つありまして、1つは「区の縦割りをなくし」という表現を使われている趣旨はよくわかるんですが、例えば、もうちょっとポジティブに、「区内及び外部の関係機関とも横断的に連携する」

みたいな形で、この、「縦割りをなくす」という表現を、もうちょっとポジティブな形で表現してもいいのではないかと感じたのが1つ。それはこの問題に限らず、庁内でさまざまな行政課題に横断的に対応していくということの重要性は普遍的な問題として考えられるのではないかと私の問題認識なんですけれども、そこが1つと、ちょっと今申し上げてしまったんですが、そうすると、その前の「子どもの貧困対策・ダイバーシティ等への対応」等で受けている部分はあるんですが、あまり限定的な形よりも、「子どもの貧困対策・ダイバーシティ等の対応をはじめ」ですとか「含め」というような形で、よりよいものに対してそれ以降の文章が包含するようなニュアンスにさせていただくと、より全体性を帯びた的確な内容になるのではないかと感じましたので、ご判断はお任せしますが、検討いただければと思います。

○委員長 今のご指摘、いかがでしょうか。確かにあれですね、横断的なところ、子どもの貧困とダイバーシティだけに限定しているような感じは確かにしますから、今の話ですと、例えば、「子どもの貧困対策・ダイバーシティ等への対応をはじめとして」と。

○委員 「はじめとして」みたいな入り方。

○委員長 「対応をはじめとして」ですね。それで、「区の縦割りをなくし」というのを、これはネガティブな感じなので、何ですかね、庁内……。

○委員 庁内連携及び外部の関係機関とも横断的に連携し、対応する云々というような感じで。庁内と外部の機関、両方の連携というものをちゃんと考えますというところ。

○委員長 なるほどなるほど。確かに「区の縦割りをなくし」というのはややネガティブな感じもするし、連携しているところも実際にあるわけですから、もうちょっとポジティブな表現があったほうがいいかもしれないということですね。

いかがでしょうか。よろしいですか。ちょっと、じゃあ、後で悩むとあれなので、何か…。

○事務局 今言っていたいた、確かにいろいろ今回のヒアリングの中でも、いわゆる横の連携は必要ですねいろいろいただいているところがあって、あえて今回、子どもの貧困がありましたので。ちょっとその辺を修正させていただいて、今のご意見を持ち帰らせていただいて、もう1回直して、できたら先生方にも最後。

○委員長 むしろもう、ここでやっちゃったら、たいした量じゃないですしね、さっきの、もう一回。

だから、前のほうは、「子どもの貧困対策・ダイバーシティ等への対応をはじめとして」と、そこまではいいですかね。あとは、「区の縦割りをなくし」というのは……。

○委員 「区の縦割りをなくし」のところは、例えば、「庁内連携及び外部の関係機関との横断的連携について対応することが求められる」というような形です。庁内と外との連携という2つの要素が入っていれば結構かと思います。すみません、今のところ表現的には少しこなれていないんですが。

○委員長 例えば、こうしましょうか。「庁内各部課間の横断的連携」とかですね。それだったら「連携」が2個出てくるのも何かあれだから、「横断的取り組み」とかですかね。

「横断的取り組み及び外部の関係機関との」、ここは横断的である必要はないわけですから、連携でいいんじゃないですかね。同じ言葉が、連携とか横断が2回出るのもあれでしょうから、何々をはじめとして、庁内各部課間の横断的取り組み及び外部の関係機関との、いや、もともと、対応には「対応することが求められる」になってますよね。もともとは対応にはなっているわけですから、「対応をはじめとして、庁内各部課間の横断的取り組み及び外部の関係機関との」、例えば、「一層の連携が求められる」とか、そんな感じでよろしいですかね。

○事務局 はい。

○委員長 ちょっと、あとは、てにをはがあれかもしれませんが、そんなようなことでどうですか。よろしいでしょうか。副委員長、いいですか。

○副委員長 結構です。

○委員長 いいですか。じゃあ、ここはそういうことで表現を手直しさせていただきたいと思います。確かに、縦割り縦割りと言うと、ほんとに縦割りになっているように思うけども、決してそうだけじゃなくて、実際にはうまく連携しているところもいっぱいあるわけですからね。じゃあ、そういうふうに表現させていただきたいと思います。

そのほか、いかがでしょうか。じゃあ、とりあえずまた、あれでしょうけども、また来年度はより上手にまとめていけばいいと思いますけど、それじゃあ、これで、ご指摘のあったところを修正させていただいて、それを最終版にするということでもありますから、もう、この場で今の文章を追記するところというのは、これでもういいと、こういうことでよろしゅうございますか。

また細かいところでちょっとの修正とかあれば、それは委員長と副委員長と事務局で調整させていただきたいと思います。

それでは、このことにつきましてはこれでまとめさせていただきたいと思います。

事務局よりお願いいたします。

○事務局 では、今、報告書をまとめていただきまして、ありがとうございました。

行政評価の今後のスケジュールについて、ちょっと簡単に申し上げます。本日の報告書を踏まえまして、区としての最終評価を9月にまとめまして、各部はそれに基づきまして予算要求を行うという流れになります。来年度予算を含めた行政評価結果につきましては、2月にまとまりますので、委員の皆様方にはお忙しいところまことに恐縮でございますが、3月にまたお集まりをいただきまして、事務局より行政評価結果についてご報告をさせていただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

私からは以上でございます。

○委員長 ただいまのご説明について、何かご質問ありますでしょうか。

○委員 私からちょっと質問したいんですけども、例えば、これは最終的に公表してどの程度までどういう方法でいつごろに外に出てくるのか。

○事務局 これはもう、ホームページも含めまして外部評価結果として発表いたします。

○委員 発表しちゃうんですね。じゃあ、全ての人がもう少ししたら見ることができる。それは最終的には9月にまとめた段階で出てくるのでしょうか。

○事務局 9月にはまとめて発表できるようにします。

○委員 一応ここで今日のところでまとまったわけですけども、まとめっていうのはまた何かこれに細工が加わるとか、そういうことじゃない。

○事務局 いただいたもので、一応庁内の確認をとった上で発表をするという中身になります。

○委員 そこではもう、少し変わったりとかいうことはない。

○事務局 そういうことはないです。

○委員 庁内の、それはすみません、どういう会議にかかるんですか。

○事務局 長期計画推進委員会という庁内の検討委員会がありまして、そこでこういう外部評価結果をいただきましたということを報告させていただいた後に、全体的に発表するという流れでございます。

○委員 なるほど。その会議は区長さんも出られるんですか。

○事務局 両副区長です。

○委員 そうですか、わかりました。それから区長への報告というのはどういうふうになるのでしょうか。

○事務局 区長の報告は、こういう評価結果がまとまりましたということで、私のほうから説明に上がるような形です。

○委員 ということになっていますね。ただ、議会はどうですか。

○事務局　議会へは、いわゆる行政評価結果ということで、外部評価を受けたものと受けていないものがあるんですけれども、それも一緒にまとめまして、二次評価という形で、こういう行政評価結果でしたということを報告いたします。今回の外部評価結果については今度の9月議会で報告をする形になります。

○委員　わかりました。実は、何か外部評価モニターの人から、中を見ていくと、こんなに熱心に、これは私たち評価委員だけではなくて、区の各主管部課、それから政策経営部とかを含めて、こんなに区がこういったことを熱心にやっているというのは初めて知りましたみたいなことが感想で何人か書かれておりましたので、やっぱりこれだけ努力をされているので、ぜひ区民の方とか議会の方々にしっかりと理解をいただくということがとても大事だと思いますので、その辺をよろしく願いいたします。で、その上でこれがホームページに公開されると。このままの形で公開されるということですね。

○事務局　はい。

○委員　はい、わかりました。

○委員長　それでは、これで平成28年度外部評価結果報告書（案）につきまして審議を終了させていただきたいと思います。

今日の議題は以上となります。来年度も引き続き当委員会は実施いたしますが、今年度は今日が最終回となりますので、委員の先生方からお一人ずつお言葉を頂戴できればと。感想も含めて、あるいは区への期待等々を含めてお願いします。

○委員　ありがとうございました。すごくわかりやすくまとめているなど、私が考えていたことをすごく的確に表現していただいたなと思っております。私自身は委員会に参加させていただいて、幾つか思うことがあったんですけれども、昨年よりも説明される区側の方も大分なれてきていらっしゃるなと思ったし、外部評価モニターの方たちも少し、人はかわっていらっしゃるんだと思うんですけれども、やっぱり認知が広がっているのか、結構、質問とかご意見もいただけたので、今後もぜひ、この活動が区民の中にも浸透していったって、有効に活用されていくことを期待したいなと思っています。

そういう意味で3点申し上げたいんですけれども、評価のところには書いていただけたんですけれども、今回、いろいろなデータとかアンケートとかというものでは結果というのはいろいろ報告をいただいたんですけれども、やっぱりそれは参加をされている方たちのご意見とかなので、ヒアリングの中でも実際に質問させていただきたいんですけれども、来れない方とか、実際それに触れていない方たちへのアウトリーチという表現をしていたらいいんですけど、そういう方たちをどう取り込んでいくのかっていうのが、やっぱ

り今後一層施策とかを充実させていく上で、より区民のニーズに対応していくという形の、今までは動かなかった人たちをどう入れていくのかということが、より区民ニーズに対応するという意味での質を上げていくというふうに思いますので、そのやり方のままで、届いてなかった方とか、来ていらっしやらなかった方にどうアプローチしていくのかということとをぜひ今後も各部局で考えていただければと考えています。そういう意味で、広報のやり方であるとか、アンケートのとり方であるとか、そういうあたりも少し工夫が必要なのかなと思っています。

それから、2つ目が指標の部分で、去年も申し上げたと思うんですけども、進捗状況を管理するような指標の部分がかかなり多い。それも必要だとは思いますが、やっぱりそれをどう改善に結びつけていくのかという意味での指標の決め方というのがまだ十分ではないと思っていましたので、その部分でどうとられているのかということ。質問すると、いや、この指標にない部分のいろいろなデータもとってますということは出てきたりするので、そういう部分も含めてきちんと、単にその指標で、この報告書に出てくるだけではないけれども、こんなのも出てます、ちゃんととってますということも踏まえて、行政も施策をきちんと改善に結びつくようにやっていますということの説明も、ぜひ来年以降はいろいろとできればなというふうに思っていますので、そういう部分での指標の取り組み方とか、データの更新の仕方、ぜひ改善に結びつくようなやり方を工夫していただきたいと思っています。

それから、3点目なんですけれども、先ほどの文章の中でも、子どもの貧困のところが出てきていますが、またこれからオリンピックもパラリンピックも控えている中で、より区内への広がりとしていく中で、観光の部分でも、オリンピック・パラリンピック対応の部分でも、かなり国際化していく中で、区民のニーズもより多様化し、複雑化していくと思いますし、子どもの貧困であれば部局間を越えた連携という部分での取り組みが非常に重要になってきますので、それぞれ部局間を取りまとめてコーディネートしていくという部分での機能をどう強化されていくのか。政策経営部のメンバーがすごく重要だと思いますので、政策経営部の取り組みの重要性をきちんと把握できるようにということであるとか、それから、計画を進めていくための部分で、政策横断的な部分での指標のとり方とかいう部分での精緻化をしていくと、やはり部局間の横断でちゃんと区がやっているという部分がかかなり明確に見えてくると思っていますので、そういう観点からの指標のとり方であるとか、施策の検証の仕方というのはぜひやっていただきたいと思っています。

最後に、ちょっと別件になるかもしれない。ヒアリングを聞いていて気になった部分が

あって、この場で申し上げるべきかちょっと迷ってはいるんですけども、外部評価モニターの方たちの役割とか機能という部分で、昨年よりもすごく多様なご意見を伺えて、すごく貴重なご意見が伺えたかなと思っていて、外部評価モニターの方の集まりはすごく重要だと思っているんですけども、ちょっと気になったのは、意見を言うということが意見の陳情みたいな形になっているときも見受けられたかなと。陳情と外部評価モニターの方たちはまた違うと思うので、その辺のあんばいがちょっと難しいとは思いますが、区に、絶対やってくださいみたいな形の、言質をとるようなそれは外部評価モニターとしての役割とはまたちょっと違うのかなと思いました。その辺は外部評価モニターの方たちの機能というか、配慮というのもちょっと語弊があるかもしれないんですけども、その辺をきちんとしていかないと、外部評価モニターがこういう会なんだとだんだん浸透していけばいくほど、あそこに行けば通るんだみたいな形になって、ちょっとそれは違うかなと思いますので、外部評価モニターの方たちの存在を重要視して尊重していく上でも、外部評価モニターの方はこういうことですよということをきちんとPRしていくことも必要なのかなというのが、ちょっと今回、昨年度に引き続き思ったので、その辺、よろしくお願いします。

○委員 江東区さんの取り組みについては非常に素晴らしいというふうに実感をしております。その上でですけども、行政評価についてはどこの自治体も今ちょっと曲がり角にきておりますので、おそらく、当然考えてらっしゃると思いますけども、今後ロジックモデルをどう取り入れるとか、プログラム評価をどう取り入れるとか、指標をどういうふうにするかということは全国的な課題ではあるかと思いますが、先進的な江東区さんでよりよい評価につなげていただけるといいのかなと思っています。

あと、もう1点。外部評価モニターの制度につきましても、非常に素晴らしいというふうには私は感じております。基本的にはこのモニターに参加された方々は、非常に参加してよかったというような印象をある程度受けましたので、ここで参加された方々は、おそらく江東区の施策を実現するためのサポーターになり得る人たちだと思いますので、このモニターの方々には、こういった結果についてはバックで資料とかは多分お送りするんだと思いますけども、そういったことでなお一層、江東区さんの味方になってくれる方々を育てるという意味では非常にいい手なのかなと思います。

以上、感じたことです。

○委員 どうもありがとうございました。昨年から外部評価モニターの、これまでの両委員もお話しされましたけど、外部評価モニターの方に入っていただく形が始まって、さら

にこの外部評価の目的といいますか、役割みたいなものがはっきりしてきたかなというふうに感じております。それは一言で言えば、報告書の6ページにもありますけれども、要は区民にどう理解していただくのかということが、ほんとうに目の前でそれをしなくてはいけないという場がこの評価を通じて設定されているということで、その点のところが非常にクリアになってきたかなと、参加をさせていただいて感じながら取り組ませていただきました。

その前提で何点か申し上げますと、一つはやっぱり各施策のところでも非常にご説明などをクリアにさせていただく部分があって、これは見事だなと思って伺っていたんですけども、やはり評価委員の中、あるいは外部評価のモニターの方のご意見などを伺っていると、この施策は一体何をどこまでなさろうとされているのかというところが必ずしも共通理解として持つところまで至らなかったという部分が幾つか散見されたように思っております。それは先ほど植田先生からもあったんですけども、おそらくニーズの分析みたいなところが、これは幾つか視点があると思うんですが、例えばニーズの分析みたいなところをもう少し深掘りしてやってみることで見えてくるものというのはあるんじゃないかと。違う言い方をすると、ずっと継続している施策、あるいは事業なので、もうやることがあたかも決まっているような形でそのことに取り組んでいるということがないかどうかということも含めて、区民の方が有限な資源でどこまで区がなさることを期待されているのかというところについては、さまざまな手法を駆使して分析、把握をされるということについては工夫の余地があるのではないかと感じました。逆にそうすることで、茫漠と際限なくやらなくてはいけないということではなくて、区としては、ここまでやるということを線を引くことで、区民の方に明確にご説明できるという、施策の内容の明確化ということができる部分も改善の余地としてあるのではないかと思います。これがまず1点でございます。

それからもう一つは、区民との関係というところなんですが、これは抽象的な話になってしまって恐縮なんですけれども、今回、施策のヒアリングを伺っていて、江東区さんならではというか、独自のといいますか、先進的な取り組みをなさっているということが、それぞれのヒアリングの中でも伺うことができたように思っております。感染症対策のモニタリングシステム、名前が違いかもしれませんが、モニタリングシステムをいち早く導入されたりですとか、あるいは観光のところでも、かなり区民との協働も含めた仕組みづくりというものを仕掛けとして取り組まれていらっしゃるということも、先駆的なものとして伺ったのですが、やはりこういったものを区民の方にどう、PRというと語弊がある

んですが、知っていただくかということについては、どうかご遠慮なさらず、施策単位でもぜひ具体的な知恵といいますか、方法があるかないかということについては、検討していただくといいのではないかと思います。

関連してもう一つ、区民との連携ということをどの施策でもおっしゃるのですが、多分、いよいよ行政の施策を遂行していくというときに、単にいわゆる形式的なパートナーシップというところにとどまらず、おそらくほんとうに施策でやりたいということを実現しようとしたときには、区民の方を施策の遂行主体という言い過ぎですが、区民の方の力を最大限おかりして、目的を達成していくというモデルをどうつくっていったらいいのか。違う言い方をすると、行政の方だけで全部を片づけようとしなない形というのは、どういう形があり得るのかということについては、さまざまな形で研究もなさってあるかとは思いますが、各施策ごとに少し考えられるとよいのではないかと思います。特にそれは観光と緑化の施策のところでは少し感じましたので、その他の施策も含めて、区民の方との連携という部分については、もう一段深いところでどういう可能性があるかというのはご検討いただけるといいのかなと思いました。

最後に3つ目なんですけれども、これは非常に抽象的かつ、ほんとうに印象論的な話で恐縮なんですけれども、区の中にあるいろんなニーズですとか、シーズというものについては今、各施策のところでは一生懸命探されたり、見える化しているということがすごくよくわかったんですが、例えば2020年東京オリンピック・パラリンピックといったとき、これは多分、スポーツの祭典という意味だけではなくて、東京の各町や地域というものが世界にどう開かれていくのかということ、プレゼンしていくような機会として位置づけるのだとすると、やはり江東区さんにとって大変貴重な、重要なエポックになるんじゃないかと思ってまして、そういう意味で言うと、例えば政策経営部さんが中心になって、今行われている各施策単位の区民との連携の、例えば会議体ですとか、ネットワークみたいなものが一体どうなっているのかということ、ネットワーク・オブ・ネットワーク、あるいはカンファレンス・オブ・カンファレンスという形で、江東区として今、区民とのつながりで、この町をどういう方向に持っていこうとしているのかといったあたりも、全体の政策調整みたいなところを政策経営部さんが中心になって、見える化していくと、オリンピックに向けた機運も含めて、江東区のまちづくりの全体の推進という意味では、非常に可能性のあることなのではないかというのをヒアリングを伺っていて感じましたので、参考程度に、最後に印象として申し上げます。以上でございます。

○委員 どうも1年間ありがとうございました。委員長、副委員長におかれましては、取

りまとめをどうもありがとうございました。

印象としては皆さん、昨年に引き続きで、ご説明される方も同じ方だったりして、随分なれてきていらっしやって、皆さんとても熱心に取り組んでいらっしやるという印象を受けております。その上で、やはり自治体はわりとPRがあまり得意ではないというか、これだけのことを熱心に、いろんなことを考えながら取り組まれているものを、もう少し区民向けにアピールするようなところを工夫されると、もう少し別の展開、区民との連携もとりやすくなるのと、こんなに区が取り組んでくれているという状況を、区民の方がよくわかるということがあるのではないかとということが1点ございました。

あと、お話を伺う中で、何をどこまでするのかという目的意識、財源は限りなくあるわけではなくて、ここまでやらなければいけないというハードルを上げていけば、どんどんハードルというものが上がっていくはずなんですね。ただ、やみくもにハードルを上げていけばいいのかというと、そうではないというか、現実的に上げていけないことが多いかと思うんですね。なので、そこは区民のニーズを的確に分析してどこまでできるのか、逆に言うと、トータルのコストがどれぐらいかかるので、目的を達成するためには区民をどう巻き込んでいくのか、そういった観点からのご検討は少し必要なのかなということを感じました。

あとは、ほかの委員の皆様がおっしゃられたこととかぶりますので、この辺で。

○委員 今年も大変やりがいのあるお仕事を与えていただきましてありがとうございました。最終的な報告の取りまとめについて、事務局は大変ご苦勞を、モニターの方のご意見の整理なども含めていただいたということで、感謝を申し上げたいと思います。

江東区さんとのおつき合いは私、これで2年目になりました。昨年もそうでしたが、今年、その1年を経て、私は、江東区の評価委員会の皆様と傍聴に見えている区民の方も含めて、私自身は自治体とのおつき合いの経験は少ないですけども、こういうことがある意味自然にできているということ自体、大変大いに印象を深くしたところです。

この外部評価の仕組みについての、今回またこの評価のほうで、委員長の冒頭の前書きというところなんかを見ると、大変重要なこととお書きいただいていると思います。このやり方はまさに、この評価というものがどういう趣旨を全庁、それから全区について持つかということを示していただいたと思うんですが、大事な文字として、外部評価についての書き出しの第4パラグラフ、「主管・関係部課、外部評価モニター、外部評価委員の三者が」、中間省略ですが、「多面的に確認し合うことを通して」という文字がございます。私は、これは大変重要なことで、評価というのは結局、これはほかの方が使っている言葉

ですけれども、気づきを持つということが重要であると。したがって、評価書というものは、最終的に全部の場面に全ての方がおられるわけではありませんが、そこを再現するものとしてこの評価書がありますが、評価書を読んでいただくことで、部局の皆さんについては我々との、あるいは外部評価モニターの皆さんとのやりとりを通じて、気づきを持ってもらうということが大事であり、そういうことが、この評価においてはできているんじゃないかと。それがさらに来年度、皆さんからお話があったように、なれていただくことの中で、より質が向上するということがあれば、この新しい取り組みというのは大変有効なものであったということになるのかと思います。

その趣旨から言って、外部評価モニターの皆さんのご意見と評価という資料となっているものが、ここにつながっていただくと、評価書の中身そのものになるという効果が持つと思います。これ自体も大変重要なことで、例えば国だと施策レベルの評価というのは、各部署レベルで分けてやっています。こちらは結局、達成度の評価をやっていて、要するに過剰達成したとか、おおむね達成したとか、それから進展が大きいとか、目標に向かっていないなどで最後まとめてしまっておりまして、中身を読んでも何にもわからんということで、こちらの場合は、S、A、B、Cでやりますけど、全部公にすると。しかも、その中で各評価者の評価の文字も全て出していただく、モニターの方もそのまま出していただくということで、まさに何が重要か、気づきということのためには、この報告書というのも、それに十分役に立つということだと思います。

役所の皆さんは大変お忙しいと思うんですけれども、この総評のところにも書いていただいておりますけれども、ぜひ外部評価モニターの皆さんのご意見も含めて逐一、特に、当然部長さんも大事なんですけれども、第一線、あるいは施策そのものの各事業の任にられる皆さんが、それをまた読んでいただいて、腹が立つ字もあると思います。私の字でも腹が立つことがあると思うんですが、そのようなところがありましたら、腹が立ったぞということ、この委員は誰であったということを部のほうで特定いただいて、質問をいただければ、私も短い字の中で、なかなか意は通じていないと思いますけど、結構、駆使して文字をつくっておりますので、ぜひそのようなことも含めてお尋ねをいただきながら、より気づきを部局のほうに持っていただけると大変ぐあいがいいのかなと感じております。

今年も大変私も勉強させていただきましたし、このような取り組み自体は良い取り組みであるし、それからちょっとレベルは違うんですけど、外部の方を入れた場合の、いわゆる事業仕分けというものより、やはり気づきという点からは大きな、また有効なやり方になっているということを2回目やらせていただいて、私自身も新たに気づきを得たという

ことでございます。大変今回はお疲れさまでございました。お世話になりました。ありがとうございました。

○委員 冒頭挨拶のところで、確かな手応えを感じているという、先ほどご指摘いただいた5行ぐらいのところというのは、やはり主管・関係部課も熱心に取り組んでいただきましたし、外部評価モニターの方々が、ある回では拍手をしてくれた。この拍手は、我々3人に対して拍手してくれたのか、それとも部課に対して拍手してくれたのか、それは多分、この全体の取り組みに対して、こういう評価を真剣にやっているんだということに対して、各部課は真剣に施策に取り組んで、それを説明しようとしているし、我々はかなりいろいろな角度から指摘をします。そういうことに対して、どんなことを熱心なことをやっているのかということで拍手をされたんだろうと思います。ですから、そういうことがまさに我々に対する、区に対する応援団になっていただいている。

それで、やはり考えたら、主管・関係部課と外部評価モニターと、それから、それらをお手伝いする我々評価委員と、まさに三位一体で取り組んでいるんだなという手応えを感じまして、去年より今年と感じました。したがって、今年より来年、期待したいと思えますし、それから、根本的に計画のつくり方、指標の問題も含めて、これは大いに検討の余地があると思いますので、ここの3カ年をやりながら、次の計画をどういうふうにして構造化するのか、どういう計画をつくると、ほんとうに計画のための計画ではなくなってくるのかということをご検討してほしいと思います。

最後に申し上げたいのは、組織もそうだし、地域づくりもそうだし、やっぱり人ですよ。ほんとうに人がどれだけいろんなコミュニケーションをきちんとしていって、ニーズを把握するということもそうなんですけれども、どれだけ一人一人の人間が、例えば区の職員の人が、深く考えるかということですね。まだまだ深く考えていない。トヨタ自動車が5回のなぜを問えと言われてますね。何か問題が起こったら、なぜ起こったんだと。それで答えが出ると、じゃ、その答えが起こったのは一体なぜなんだと、トップから現場の社員まで5回なぜを繰り返すことによって、正真正銘の原因にたどり着く。それをたたかない限り、ほんとうの対策にはならないんだということですね。

この5回というのは、もしかしたら6回、7回かもしれません。つまり、考え抜くということが実はすごく大事なんだと思うんですね。よその区がやっているから、世の中でこういう言葉があるから、じゃ、これやりましょうみたいなことで施策をやっていたら、これは幾らお金があっても、労力があっても足りないわけで、選択をしていかなければいけないですから、やはり一人一人の区の職員が考え抜く。これでもか、これでもかと考え抜

いていくというところはまだまだ足りないと思うし、考え抜く度合いが区の職員、あるいは部課によってかなりばらつきがあるような気がするんですよ。

ですから、やはりこの評価というのは、最終的には私たちも勉強になるんですけど、区の職員の方々がこれによってトレーニングされて、そして政策なり、考える力が練り上げられていく、鍛え上げられていくというのがすごく大事だと思うんですね。そういうことなんだということを、両副区長もおられますので、ぜひ、まだややちょっと斜に構えた方もおられるんでしょうかね。俺たちはやっているんだから、文句あるのかという感覚のものも全くないわけじゃない。あるいは外部評価モニターの方が指摘することに対して、必ず反論じゃないんだけど、正当化していくんですね。だったら、その場で素直に聞けばいいじゃないかと。そして、その上でどうするかを、もう一回腹のうちに入れた後に次に考えればいいと思います。それはやはり、ある意味で自分の仕事に誇りを持っていることかもしれませんけれども、それは聞く耳を持った上での誇りだという気がするんで、こういう評価を通じて、職員を鍛えることをやってほしいと思います。

それから、ほんとうに区民の方々に、これだけ努力していても伝わらないと思うし、50万人に伝えるなんて多分どだい無理だろうと思います。だけど、できるだけ丁寧な対応をしていくということに尽きるんだろうと思うんですね。そのためには、仕事を効率化することですね。できるだけ会議を減らし、つまらない資料をやめて、形式的なことをやめていって、ほんとうに区民に向き合う、政策に向き合う時間をどれだけつくるかということが大事だと思うんで、やはり行政の効率というのはそこにあると思いますから、単なるお金を節約したり、人を節約することが意味があるわけではなくて、どれだけほんとうに区民に向き合えるか、あるいは政策を練り上げる時間に没頭できるかということだと思うんです。そのためには、無駄な仕事ということはないと思うんですが、無駄と思われる仕事を徹底的に減らしていくという努力をやっていただきたい。そういうことを考えるきっかけに、これをぜひ使っていただきたいなと思います。

ただ、すごく楽しく仕事をさせていただいて、大いに勉強させていただいているというのは、これは政策経営部をはじめとしまして、区の職員の皆さんの努力があつてのことだと思いますので、厳しいことを申し上げますけれども、楽しく仕事をやらせていただいたことに対しては、心から感謝を申し上げたいと思います。どうもありがとうございました。

○委員長 それでは、今日は副区長お二人、ご出席いただいておりますので、両副区長からもご意見、ご感想などを賜ればと思います。よろしく願いいたします。

○事務局 第5回の外部評価委員会ということで、この1年ほんとうにありがとうございました。

ました。

去年、何言ったかと先ほど思い出していたところで、そういえば、管理職がだんだんなれてきて、何も考えていないんじゃないかという趣旨のことを何か言ったようなことを何となく覚えているんですけど、今年も過分なご評価をいただいたなと思っていますけれども、私はふだんから区長がいる前でも言うんですけど、例えば今、江東区はオリンピックの問題だとか、学校の問題だとかいろいろ課題を抱えていて、市場の移転の問題だとか結構世間的に問題になることを抱えていて、それに取り組んでいかなきゃいけないという課題は多々あるかなと、それはもちろん承知しているんですけど、私が一番怖いのは何かというと、やっぱり日常のルーチンの仕事をほんとうに丁寧に、それにとられてしまって、結果的にどこかで落ちてしまうんじゃないかというのが、僕は一番怖いなと正直思っているんです。

ものすごく単純なことですけど、例えば、私がふだん住んでいる役所に何か期待しているものがあるかということ、ほとんど何も考えていなくて、ただ時々、役所に行って、書類をとりに行ったりなんかということはないわけじゃないですけど、そうすると、もう行くと職員が寄ってきて、5分か10分ですぐ用が終わってしまうんですね。ところが、根本的なことでほんとうにそれでいいのかとずっと実は何年間も考えているんですけど、うちの区の場合は、転入届だけでどうも、場合によっては半日役所にいなきゃならないとか、そういう問題、つまり2時間、3時間は当たり前ということが実際、現実問題になっていると。

その方たちというのは多分、僕はサイレントマジョリティーだという気もするんですけど、ほんとうにそれでいいのかどうかということ、それでもここ数年間で大分待ち時間は短くなったなと思っていますけど、やっぱりそういうこと、根本的な問題、もしかすると、それが各課で同じようなことがあるのもわかりません。2階の住民票を受けるところでは、そういう事態が生じています。多分ほかの子供だとか、お年寄りだとか、障害者だとか、場合によっては全て土木でもまちづくりでもそういうことがあるのかもわかりません。そういうことに思いをいたさなきゃ多分一番いけないんじゃないかなと僕は思うんですね。だからよく職員に対しても、ルーチンをもっと大切にしろという、つまりオリンピックだとか何とかじゃなくて、まずルーチンを大切にしろという根本的なことをよく僕は言います。そういう意味では、今回こういった形で、外部評価でいろんな形で、皆さんからもご意見いただいたというのは、職員に対しても非常に刺激になりますし、決して悪いことじゃないな、いいことだなと思います。

国と都、区との決定的な違い、市区町村との決定的な違いというのは、国とか東京都は今や、国民なり都民なりと話す窓口というのは一切ないんですね。つまり、国の役所もそうだし、都庁に行っても、簡単に言えば、身分証明するものがなければ中に入れないわけです。区にはそういう場所は1つありません。ふだんの職員が区民の方と接する場所の中で、いろんな皆さんからいただいたご意見なんかも直接受けている場合も結構あるんだろうと思うんですね。そういう意味では、我々の位置づけというのはそこにしかないと僕なんかは思いますから、先ほど、これを皆さん方から読んでいただいてというお話もありましたが、1つの材料として非常にいいのかなと思います。私としては、こういったことを地道に繰り返すことによって、職員に対しても、それから区民に対しても結果的にいいものを得ることができるんじゃないかなと思います。

あと1つだけ、私、あまのじゃくなんで、今お話聞いている、政策経営部が全体の横の連携だとかやって、横の連携という話は、例えば石原都知事なんかもよく言っていたし、区長なんからもよく言われるんですけど、横の連携ということをあんまり強調すると、責任を持って仕事をやらなくなるというのがどうも役所の通弊でして、どうも、それは企画に任せてありますとか、そういうけしからん話がよく実際の仕事の中で聞こえてくるんですね。僕は、ここにはそういった横の連携をきっちりしなきゃいけないということがありますから、多分これから部課長が来たときに、ちゃんと責任持ってあんたやんなさいと強く言おうかなと、逆にそういうふうに思っているんです。結構そういうことは正直あるんですね。これは企画がやっていますとか、財政がやっていますとか、これは職員課がやっていますとか、そういうところというのは結構役所の通弊として僕は重いかなという気もするんです。多分、両方真理だと思うんですね。両方真理だとは思いますが、そこをどこでバランスをとるかということがあろうかなと思います。ふだん私たちが、全てについていいことをやっているとはばかりは思っていないけれども、やはり先ほど申し上げたとおり、職員は一生懸命やっていることは間違いないです。間違いないですけれども、それをどういった形で、皆さんにフィードバックして、皆さん方と会話できるような状況をつくるかというのは多分一番大切だと思います。

あと、極端な言い方ですけど、私は職員に対しても、デジタルやめてアナログにしろとよく言うんです。自分の部下に対してメールで連絡するようなやつは許さんとよく言うんです。目の前にいる職員にメールを打ったりとか、そういうけしからん課長とか係長がいると、そんなのとんでもないじゃないかと、自分の言葉で話せとよく言うんですね。僕はどちらかという原点回帰といいますか、そういったことをこれからも、ぜひ職員に対し

でも言い続けていきたいなと思います。そのいいきっかけになったろうなと思います。

ほんとうにありがとうございました。

○事務局　今回も適切な評価をありがとうございました。

区民ニーズや社会状況というのは刻々と変化しておりまして、定期的にこういった外部評価を実施いたしまして、施策等の進行管理をしていくということは大変重要なことだと思っています。今回いただきました専門的見地からの評価、あるいは外部評価モニターの皆様のご意見については、気づきということが必ずあると思いますので、それにつきましては、今後、予算編成等の過程で十分吟味して、分析いたしまして、施策の改善につなげていきたいと考えております。

それから、外部評価を通じての区民への説明責任、アウトリーチという話もありましたけれども、きちっと説明をしていくということと、それから職員の意識改革、これについても非常に重要だと考えておりまして、今後、十分配慮していきたいと思います。

今回は、ほんとうにありがとうございました。

○委員長　それじゃ、事務局のほうから、お願いします。

○事務局　事務局を代表しまして、私から最後にご挨拶をさせていただきたいと思います。

本日、今年度の外部評価の報告書をご審議、おまとめいただきましてまことにありがとうございました。私ども事務局がそろってございますけれども、昨年ご指摘いただいた点を踏まえまして、今回、先生方、委員の皆様にも、それからモニターの方にもわかりやすくということで、冒頭の部長説明等々は工夫をしたところがございました。

あと、やり切れたかどうかはちょっとありますけれども、施策というものの方向性、課題を共有した上で議論ということを意図したつもりでございます。

また、各班、吉武委員長、塚本副委員長を中心にご議論いただいていた中で、両トップともプロセスというんですか、私ども部課長との評価のプロセスをととても大事にして、鍛えていただいているのかもしれませんが、そういった中でご議論を進めていただいたと実感してございます。先生方、それぞれのプロでいらっしゃるんですけれども、各回、私ども事務局として拝聴した中では、今回ご指摘で共通していたのは、誰のために何をどれだけ行政が取り組むのかということ、私どもはまだ説明ができていなかったということと、それをなしに次のステップには行けないよということ、皆さんおっしゃっていたんじゃないかなと思ってございます。とても大切な視点でございます。参加した職員は気づいた者も多いと思いますし、そうでない職員に、どうやって改めて伝えていくかということは、とても大切だなと思っています。

それから、今回、各委員からもございましたけれども、外部評価モニターの方が、非常に主体的にご議論に参加いただいて、実は先生方のご評価とモニターの方のご評価を数値化して見たところで、同じ傾向できちっとご評価いただけている、ご意見いただけているなというところと、非常に意見が端的でございまして、その辺につきましては、とても手応えを感じてございますし、区民に支えられていることと、それから期待に応えて、これはPRが下手だというご指摘もございましたけど、きちっと返していくということが大事だなと思ってございます。まだまだ私ども改善すべきところもございますし、根本的に、先ほどもございましたけれども、私もそのように思っておりますけれども、計画が要るのかという議論があると思います。要らないんじゃないかと、何に役立っているんだというところは正直あると思うんですけれども、私は現時点では要ると思ってございます。

それから、この外部評価については日々の改善だし、やはり先を見て、先ほど次の計画というご指摘がございましたけど、私もそのように、要するに次に何をしていくのかということを用意しながら、今どうあるべきかということの評価なりご議論を頂戴できるように、特にこの政策経営部の事務局は、次何をするのかを見据えて、この評価には携わらなければいけないなということを今日、心新たにしたというか、そこが一番自分としても努力しなければいけないなと思ったところでございます。前回、ご指摘がございましたが、事業の改善数ではなく、外部評価がどこに生きたかにつきましては、事務局総出でこの後、予算編成なり計画のローリングをしてまいりますけれども、必ず生かしてまいりますというところをお約束いたしまして、お礼の言葉とさせていただきたいと思います。また今年度の評価結果を3月にご報告し、それから、来年度も引き続き江東区のためにお力をいただけますようお願い申し上げます。

本日はどうもありがとうございました。

○委員長 どうもありがとうございました。それじゃ、事務局から。

○事務局 来年度についても引き続き先生方をお願いしたいと思ってございますので、どうぞよろしくお願いいたします。

私からは以上でございます。

○委員長 それでは、本日予定されておりました議題は全て終了いたしました。委員の先生方、あるいは事務局の皆様方のご協力で報告書をまとめることができましたことを、心から感謝申し上げます。特に暑い中でやりましたので、ほんとうにご苦労だと思いますけれども、事務局の方は、夜遅くにメールをいただいたりしていましたから、相当遅くまで残っているのかなと案じながら、仕事をさせていただきました。

皆様方に感謝を申し上げまして、これで第5回の外部評価委員会を終了させていただきます。どうもありがとうございました。

午後 0時 5分 閉会